

第3学年E S D (総合的な学習の時間) 学習指導案

日時 平成29年9月22日(金) 5校時

場所: 3学年教室 授業者: T1 鹿又 悟

T2 佐藤 陽子

GT 矢吹真由美

1 単元名 「地域のよさを見つけようⅠ」～ディスカバリー大豆～

2 児童の実態

本学級の児童は、素直で活発であり、興味・関心をもったことに熱心に取り組む。自分の考えや思いを意欲的に発表することができる一方で、自分の考えを話せたことに満足してしまい、友達の考えを自分の考えと比べながら聞くことができない児童が多い。このようなことから、友達の考えと比較しながら聞くことができるよう取り組んでいるところである。また、給食時間を見てみると、学級の食べ残しはほとんどないが、食材をよく見て大豆の加工品を意識しながら食べている児童はほとんどいない。そこで、本単元の学習を通して、大豆が自分たちの食生活に欠かせないものであることを意識し、大豆を意識して食べたり、周りの人に大豆について話したり、苦手でも食べようとしたりする態度を養いたい。

3 E S Dの視点に立った学習指導について

(1) 教材について

総合的な学習の時間に初めて取り組む第3学年では、児童にとって身近な学校や地域を活動の場としている。子どもたちは、2年生の生活科で地域での体験的な活動をしてきており、3年生の社会科では学校の周りの様子や須賀川市についてまとめる学習をしてきた。このように学習における地域とのかかわりは大きく、地域のよさに触れる活動は意義深いと考える。また、児童が関心のある給食からアプローチすることで、意欲的に調べたいという探求心を身に付けさせたいと思っている。

本単元は、総合的な学習の時間の目標の構成の(2)「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や資質を育成する」に属する学習である。対象となる事象への体験活動を大切にするとともに、それらを通してまた新たな課題を見つけ、さらなる問題の解決を始めることができるようにする必要がある。この学習は、3年生社会科の「市の様子」、「昔の道具を伝えよう」、国語科「すがたを変える大豆」、4年生の総合的な学習の時間「わたし達を取り巻く環境」へとつながっていくものである。

導入ではまず、私たちがどれくらい大豆を食べているかを給食の献立表から調べる。そしてほぼ毎日のように大豆製品を口にしていることが分かり、大豆に対する興味を広げる。そこから、「大豆はどのようにできるのか」「大豆製品にはどんなものがあるのか」「大豆からどのようにして豆腐や納豆になるのか」など、大豆についての疑問を出し合い、それらの疑問を解決していこうと詳しく調べていくことにする。

また、自分たちで大豆を植えて、大豆の生長を観察していく。大豆製品に注目し、醤油や豆腐、味噌などの作り方などを調べることにする。体験や調べ学習などを通して大豆について深く知り、大豆が身近な存在であることに気づかせたい。

さらには、「地域のよさを見つけようⅡ」～ディスカバリー大豆～では、作り手の思いや苦勞も知らせ、昔ながらの製法を取り入れた先人の考えに寄り添いながら、先人の知恵と技術のすばらしさを感じさせたい。そして、大豆食品を食べる大切さ、地域でも大豆食品が作れていることに気付かせ、発信する場を設けたいと考えている。

(2) 持続可能な社会づくりとの関連

現在、日本では、グローバル化が進み、さまざまな国の食品が社会に流通している。原料をそのまま食すより、加工して食している場合の方が多くなっている。本単元では、大豆のさまざまな食品に変化していることについて気づかせたい。これは、「持続発展可能な社会づくりの構成概念」のうち、「I 多様性」にあたる。また、大豆が体に良いこと、先人の知恵で変化されてきたことだということに気づき、家族や地域の人から取材することで、さまざまな食品の変化する大豆が万能な役割を保っていることに気付かせたい。これは、「V 連携性」にあたると考えている。

(3) 本単元の学習指導で重視する能力・態度の内容とその指導

＜多様な観点から考え、見通しを持ってよりよい解決策を考える力＞

- ・給食の献立表などの身近な物から、問題を見出すことによって、既習事項や生活経験と関連づけながら考えることができる力

＜気持ちや考えを交流させ、協力して取り組む態度＞

- ・自分のテーマに沿って、情報を収集して、伝え合い、どのように発信するか話し合う態度

<さまざまな人や社会、自然などのつながりを尊重する態度>

- ・大豆の調べ学習を通して、先人の知恵から大豆がさまざまな食品に変わることを知り、さまざまな地域で作られていることに興味を持ち、大豆のことを大切にしようとする態度

これらの能力・態度を育てるために、次のような点に留意して指導を進める。

- ① 同じテーマごとに調べ学習を行い、どのように情報収集を行えばよいかわかりやすくする。
- ② 調べたことを伝え合う場を定期的に設け、整理して発表できるようにする。
- ③ 給食という身近な食事から問題を見出し、地域でも大豆を加工して作っていることを知ること
で、生活における大豆の重要性に気づくことができるようにする。

4 単元の目標

大豆の栽培や調べ学習などを通して、大豆がさまざまな食品に変わることや大豆製品がさまざまな地域で作られていることに気づく。

5 指導計画と評価規準（総時数 19時間）

段階	主な学習活動 (時数)	多様な観点と見通し (学習方法)	交流と協力 (他者や社会)	つながり (他者や社会)	主体的・計画的 (自分自身)
課題 の 設 定	大豆が多く使われていることを知ろう。(3) ・献立表を見て、大豆が多く使われていることを知る。 ・大豆の知っていることについて話し合う。 ・大豆について調べたいことを決める。	大豆について、自分の経験と関連づけたり今までの学習と関連付けたりして、自ら課題を見つけている。	大豆について、自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりして、積極的にコミュニケーションを行っている。	大豆がさまざまな食品に含まれていることに気づくことができる。	
情報 の 収 集	大豆について調べよう。(8) ・調べ方について知る。 ・大豆を育てる。 ・大豆の観察を通して、大豆の疑問に思うことを探す。 ・家族・地域の人に取材し、情報を収集する。 ・大豆についてゲストティーチャーに話を聞く。 ＜本時＞	大豆について、情報を収集するための方法を考えている。	大豆について他者と協力して、情報を収集している。		大豆について、主体的に情報を収集している。
整理 ・ 分 析	調べたことをまとめよう。(6) ・調べたことを分かりやすい表現方法でまとめる。 ・発表に向けて準備・練習をする。 ・発表の工夫を考える。 ・中間発表を行い、修正する。	大豆について収集した情報を比較したり、分類したり、関連付けたりして整理・分析している。	自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしながら、友だちと協力して収集した情報を整理・分類している。		まとめや発信につながるように考えて、収集した情報を整理・分析している。
ま と め ・ 表 現	調べて分かったことを発表しよう。(2) ・発見発表会をする。 ・活動の振り返りを行う。	誰に何を伝えたいのかを意識して、まとめや発信の方法を考えている。	友だちと協力したり、友だちの意見を聞きながら、よりよいまとめ方や発信の仕方を考えている。	大豆についての発表を通して、大豆の大切さを理解することができる。	

6 ねらい＜第 1 1 時＞

自分のテーマについて、情報を収集することができる。

7 指導過程

段階	学習内容・活動	時間	○指導上の留意点 * E S D の視点に立った留意点・評価＜E S D で重視する能力・態度＞
導入	1 前時の確認と本時のめあてをつかむ。 自分のテーマについて詳しく調べ、発表に向けての大豆の情報を集めよう。	5	○誰に向けて、大豆の発表会をするのかを再確認させる。
展開	2 テーマごとのグループに分かれ、調べ学習を行う。 ・タブレット端末を使って調べ学習を行う。 ・本を使って調べる。 ・今まで調べたことで分からなかったこと・さらに知りたいことを G T に取材し、わかったことをメモする。	2 5	○ G T は全グループを回り、助言または質問に答える。 ○ T 1、T 2 は各グループを回り、助言を行う。 * タブレット端末・本などの資料、G T への質問から、テーマに沿った情報を収集させる。 ＜主体的・計画的＞＜多様な観点と見通し＞ * 個人・グループで、G T に質問したいことを考えさせる。 ＜交流・協力＞
終末	3 各グループで今日分かったことを発表する。 ・わかったことを整理し、発表する。 4 学習を振り返る。 ・本時の反省を振り返りシートに記入し、感想を伝えあう。 ・次時の学習内容を知る。	1 0 5	○全グループ発表させる。 ○T 1 は、児童から出された情報を板書する。 * 本時分かったことを整理し、発表させる。 ＜交流・協力＞ ○振り返りシートに簡単に自己評価させる。 ・今日分かったこと、今後どうしていきたいかなど、自分なりの思いを持つことができたか。 (発表・ワークシート)＜主体的・計画的＞ ○数名に考えたことを発表させ、個の気づきを全体で共有できるようにする。